



JAL不当解雇撤回ニュース

No500 号 2016.08.18
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>

絶対安全の確立

～2度と事故は起こさない～



520名もの命が御巣鷹の尾根に散ってから31年、あの熱い夏がめぐってきました。8月12日、東京・大阪・福岡の3カ所で、JAL123便が羽田に戻ろうと必死に飛んでいる時刻、宣伝活動を行い、黙祷をささげました。日航社内では、この事故を経験した社員が殆どいなくなりました。迷走する飛行機を立て直そうと懸命に努力したパイロット、必死でお客様を守ろうとした客室乗務員、そして命を失う恐怖と戦った人々の思いを、決して忘れてはなりません。空の安全を守るのは私たち！この事故を風化させることなく語り継ぎ、安全運航のためにあらゆる努力を尽くす！安全のためにも不当解雇を撤回し労働者の権利を守り抜く！8月12日の行動は、この決意を示す取り組みとなりました。

東京

♪見上げてごらん夜の星を♪～流れるトランペット音色。123便事故

で亡くなられた歌手坂本九さんの名ヒット曲で日航本社前宣伝行動がスタート。あいさつに立った共同代表の糸谷全国港湾委員長は「安全のために意見を言った労働者を解雇することは大きな間違い」と指摘。「日航は事故後、労使関係の安定をうたいながら、不当労働行為を繰り返している。争議解決する気もないJALに空の安全を語る資格はない」と全労協全統一の佐々木書記長。全労連の野村副議長は「人員不足の今こそ解雇者を職場に戻して安全の確保を」と訴えました。また山口団長は「当時労組は、事故の直接原因とどまらず、事故の背景も含めた調査を求めた」「事故の背景には利益優先の経営方針があった。今『利益なくして安全なし』がまかり通っている」と指摘し、「安全確保のために闘う」と決意を表明。また、事故直後JAL会長になられた伊藤さんから、原告団に“祈る必勝”のメッセージがあったことが披露されました。



JAL本社前 黙祷

伝なし、幟なしのサイレント宣伝行動が粛々と行われ1000枚のチラシを配布しました。18時56分「この時刻に群馬県上空でダッチロールする飛行機を必死でパイロットが操縦していました」との声に合わせ全員で黙祷。何かあれば介入をしてくる空港会社ですが、この日の責任者からは、「文句のつけようがない」との“お言葉を頂戴”しました。

福岡

福岡空港では手作りのゼッケンを首から下げながらチラシを配布しました。「31年前の今日、8月12日の事故を覚えていますか？」等と声をかけると、「あっ！」とうなずきながら戻って来て、ビラを受け取っていく方もいました。

大阪

大阪に着陸するはずだった123便。事故関係者が多く住む大阪の伊丹空港では、マイク宣

伊丹空港



福岡空港

